

# 現役合格に向けて、高1・高2が気をつけるべきことは？

## 高1：秋はレールを外れ始める時期？

一学期、多くの高校1年生は、程度の差こそあれ学校が敷いたレールの上を走ってきました。右も左も分からない高校生活ですから、先生にアレコレと指示されれば、とりあえずは従ってきたと思います。出された宿題をこなし、小テストの準備をし、定期テストに向けて頑張る、いわゆる「真面目な子」。これが徐々に変わり始めるのがこの秋からです。理由は至ってシンプル。高校生活がどんなものか「大体分かった」から。「ここまでなら手を抜いても大丈夫」「これはやらないとマズい」「これはやらなくてもいい」、という暗黙の了解ができるようになり、さらに夏休みという“たが”が外れる時期がダメ押しをするのです。

秋はこの状況に加えて学校行事(文化祭や体育祭など)があります。そんな中で、授業の進度は上がり始めます。一学期の「試運転」が終わり「通常運転」になります。高校で学習する量はかなり膨大で、授業で懇切丁寧に説明をしていますがまずカリキュラムが終わりません。すると当然、授業ではポイントだけをかいつまんで教えて後は生徒自身で埋めてもらうしかなくなります。さらに、ポイントだけは教えてくれるといっても、それも授業時間内で理解しきれものばかりではありません。この時期から徐々に成績が下がり始める生徒が多いのは、生徒が勉強しないからというだけではなく、授業進度の違いや学習内容のレベルも大きく影響しているのです。

## 高2：理想と現実との乖離がヤル気は失わせてしまう

入学時は同じくらいの成績の生徒が、「用意…ドン！」で勉強をスタートします。しばらくは皆がそれほど学力差のない状態で過ごしていきます。しかし、2年生に進級するまでの1年間で、いわゆる「デキル生徒」と「デキナイ生徒」と、あっという間に差が開いてしまうのが現実です。そして、後れをとっている生徒は2年生になった頃その差に気づき、「取り返さなければ…！」と焦りを覚え始め、これがプレッシャーになっていきます。また、言うまでもなく2年生は1年生のときよりも学習内容が膨大で且つ難しく、そこから追いつく・追い抜くことは容易ではありません。気付いたところで、「これは取り戻せそうにない…」という半ば諦めの気持ちが、生徒の『ヤル気』を奪ってしまいます。「頑張らなくてはい」というプレッシャーと「頑張ってもどうにもならない」という諦めの気持ちが、生徒たちを「中だるみ」の状態にさせてしまいます。そうならないためにも…

### 「優先順位」「計画立て」が重要です。

勉強は量と結果が比例するものです。とにかく「勉強をやらない状態」が続くことが良くないことで、やり続けてさえいれば、ペースの違いはあれど学力は必ず向上するものです。まだまだ高校2年生、焦る必要はありません。現時点の成績も大事ですが、「ヤル気のない状態をつくらないこと」がいちばん大事なのです。とはいえ、あれもこれもと全て頑張らなければならないという気持ちはプレッシャーにしかありません。優先順位をつけ、クリアできそうな目標を立て、少しずつ継続的に努力していく必要があります。CLEARはその優先順位付けと計画立てのお手伝いをし、共に走ります。